

- 中期計画検討委員会スタート
- 就職支援プログラムが文科省の推進事業に
- 観光交流文化学科開設へ
- 保健学部 30 周年を迎えて
- 硬式野球部 東京新大学リーグ 1 部昇格



杏林
KYORIN DAIGAKU SHIMBUN
大学新聞

中期計画検討委員会スタート

杏林大学中期計画検討委員会委員長 **神谷 茂**

(学長補佐、医学部教授)

文部科学大臣の諮問機関である「中央教育審議会」は、平成 20 年 12 月に今後の日本の大学の長期にわたる基本路線になると見られる「『学士課程教育の構築に向けて』と題する答申を提出しました。答申は高校からの進学率の高まったいわゆるユニバーサル化を迎えた大学教育の質の保証を求めるというものです。

杏林大学はこの答申を受け、本学の教育の質を保証するシステムを構築するため、今後3年間に取り組むべき具体策を検討する「中期計画検討委員会」を、本年4月にスタートさせました。

委員会は「大学の教育目標の明示」「教育の質の向上を図る」など8つの課題を設定し、それぞれ分科会を設置して検討していくことになりました。

ユニバーサル化した大学教育

近年、大学を取り巻く環境は急速に変化しています。多様かつ複雑なグローバル化した現代社会にあって、大学は自立した「21世紀型市民」を幅広く育成し社会に送り出すことが期待されています。

少子化による人口減少を迎え、平成4年度に205万人だった18歳人口は20年度には124万人以下で減少しました。

大学・短期大学への進学率は56%に上り、高等教育はユニバーサルなものとなりつつあります。また、大学・短期大学の収容力は大学志願者の92%に達し、志願者のほとんどが大学へ入学し得る状況となっています。

平成 19 年 3 月には学校教育法等の一部が改正され、大学を含む各学校はそれぞれの教育目的・教育目標を見直すことが要求されることになりました。さらに、20 年 12 月には中央教育審議会（中教審）より「学士課程教育の構築に向けて」が答申され、大学での教育のあり方がより具体的に明示されました。

こうした状況の中、杏林大学の教育現場を見た時、取り組まなければならないいくつかの課題があります。学生個人に対応した教育システムの開発、中途退学率を下げるための取り組み、教育施設の整備、入学志願者の増加を図る方策の開拓等々があげられます。これらの課題についてはその背景・派生した理由を正しく理解して、その実状を的確に捉えながら、解決のための対策を検討していくことが求められます。

**中教審答申を受けて
今後3年間の改善策策定へ**

本学ではこれらの課題解決に当たるとともに本年4月、杏林大学中期計画検討委員会を設置しました。本委員会は平成16年11月～17年6月に設置された中長期改革委員会を引き継いだものですが、今回は昨年受審した大学認定評価⁽⁶⁾での評価結果を踏まえながら、昨年に明示された中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」が求めている教育の質を保証するシステムを構築するため、向こう3年間に杏林大学として実行すべき具体策を検討することを目的としています。加えて、委員会はその具体策を実行すべき取り組みを推進することにより、杏林大学ブランドを高めるという役割を担っています。

本委員会は長澤俊彦学長、松田剛明副理事長、堀和生学園事務局長を顧問として、4学部の学部長、教務部長、入学センターとキャリアサポートセンターの2人のセンター長、大学院教務主任などの教員に加え、本部および大学の事務部長など合わせて55名が委員となっています。さらに12名の事務局スタッフが本



医学部臨床講堂での講義風景。医学教育の総まとめとして、5年生、6年生に病気の症状や各種の検査結果などの症例が示され、病気診断のトレーニングが行われる。医師になる最後の過程だけに授業を受ける学生の表情も真剣そのものである。

委員会の運営をサポートする体制をとっており、まさに大学あげての取り組みとなりました。

(*) 各大学は7年に1度、第3者評価を受審することが義務づけられている。

検討委員会発足
本学の課題を幅広く議論

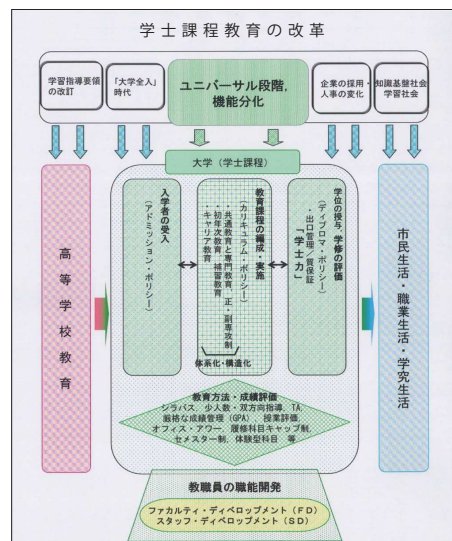
4月から7月までに5回にわたり中期計画検討委員会が開催され、各委員が杏林大学のかかえる諸問題を出し合った上で、その改善策、将来展望など多岐にわたって意見を交わしました。

また、中教審咨答を作成した大学分科会制度教育部会の学士課程小委員会で主査を務めた金沢工業大学学園長・総長の黒田壽二先生による「学士課程教育構築のポイント」(「教育學術新聞」掲載)を討議資料として議論し、委員全員で咨答内容の理解を補強しました。

中教審答申では学士課程教育の改革の
要点として

- ・3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー（DP：学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（AP：入学者受け入れの方針））が存在すること（右図）
- ・学部教育には正課教育と正課外教育が含まれ、それらを通して学生に「学士力」（幅広い教養）および「人間力」（コミュニケーション能力、感受性、社会性など）を付けさせ、社会に送り出すのが大学の使命であることなどが指摘されています。

こうした本学の課題をめぐる幅広い議論や勉強会を経て、委員長私案をもとに第5回委員会では今後の活動方針が以下のように決定されました。



1. 3つのポリシーについて 各学部で改善策を作成

中教審各申「学士課程教育の構築に向けて」の中で重要性が指摘されているディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、アドミッション・ポリシー (AP) については、各学部において各教務部長をリーダーとする学部教務委員会を中心として改善策を検討します。

具体的には同答者中の「大学に期待される取組」の実現に努力することを求めることとし、各学部で検討された改善策（実現策）が中期計画検討委員会で報告されることになりました。

2. 全学的課題

教育目標の明示など8項目

「学士課程教育の構築に向けて」の中に謳われた、大学が取り組むべき諸点を実施していくためには、全学的課題を明らかにして、これらの課題を解決していくことが重要です。

昨年度の大学認証評価における指摘点を勘案しつつ、本委員会での討議の結果、以下の8つの全学的課題が検討すべき問題であるとされました。



1. 大学の教育目標の明示

杏林大学の特徴は何か、どんな人材を育成するのか、理想的な卒業生とはなどの点を明らかにするためには、大学の教育目標を具体的に明示することが肝要です。また、新学部の新設などの検討もします。

2. 教育の質の向上

カリキュラムの整備、シラバスの充実、教育技法の工夫・開発、small group learning システムの普及、本学教職員の「教育力」の強化 (FD, SD の強化)、教員評価システムの確立、教育専従員の増設などにより、本学の教育の質の向上を図るための具体策を検討します。

3. 退学者問題への対策

せっかく入学しながら退学していく学生の実状およびその背景を明らかにするとともに、退学者の少ない大学を目指すための対策 (初年次教育の充実、学生支援体制・教育支援体制の整備など) を検討します。

4. 教育施設の整備

教育の質を高めるために、small group learning のためのセミナー室の設置、現在保健学と人文・社会科学とに分かれている図書館を統合した新しい図書館の建設、学生自習室の設置、体育施設の整備など、教育施設を整備していくことを検討します。

5. 海外交流の促進

本学の教職員および学生による海外交流をさらに活発にしていける必要があります。

国際的な視野をもつ学生を輩出するためのみならず、国際的に高い評価を本学が獲得するためにも、海外交流の促進を図っていきます。

6. GP (Good Practice)、科研費の獲得

文科省が優れた教育プログラムとして採択するいわゆる GP や科学研究費の獲得に向けた努力は決して十分なものとはいえません。

GP の獲得、科学研究費の獲得額・獲得率をトップクラスの大学と肩を並べるところまで高めるための方策が必要と考えています。

7. 高大連携の促進

新入生がスムーズに大学の教育にとけ込めるようにするために、高校との連携を促進することが必要です。

高校教育と大学教育をつなぐ新しいプログラムを開発し、高校との連携を強化していきます。

8. 入学試験への対策

入学志願者の確保は本学にとり、重要な課題です。志願者を安定的に確保するため、全学的にどのような方策を講ずるべきかを検討します。

3. 学部間連携、キャンパス間連携の強化

八王子キャンパスには保健学部 (看護学科を除く)、総合政策学部、外国語学部があり、三鷹キャンパスには医学部と保健学部看護学科があります。学部間連携およびキャンパス間連携を強化することは、カリキュラムの質を高めるためにも重要です。具体的には以下の内容の実現に向けて検討します。

- 1) 全学部共通講義の実施
- 2) 文系教員の理系学部での講義、理系教員の文系学部での講義
- 3) 研究面での学部間連携の強化
- 4) 遠隔授業の実施

4. 学外との交流促進

学外との交流を推進することにより、杏林大学の認知度を高めるとともに、地域と連携した研究活動、ボランティア活動を展開することは本学の将来を考える際に重要です。学生が主役となった学外活動を進めることにより、学生には人間力を向上させることが期待されます。

上記 4 点のうち、全学的課題としてあげられた 8 項目については、それぞれ部会を設置して課題解決のための具体策を検討することになりました。本年 10 月初旬までにそれぞれの部会での検討事項を本委員会へ報告していただき、本委員

会においてこれらを議論して、その実施に向けての取り組みを決定する予定です。

本委員会では本年末までに向こう 3 年間に実施可能な計画を立案し、杏林大学の教育の質を向上させ、大学のブランド力を高めるための具体策を決定していきます。本学教職員ならびに学生・大学院生と一緒に杏林大学のあるべき姿を求めていきたいと存じます。



細心の注意を払って実験を行う学生たち

キャリアサポートセンターの学生就職支援の取り組み

文科省学生支援推進プログラムに採択される



学内で開催した模擬面接。本番さながらの質問に、最初は緊張する学生たち。このような経験は実際の就職活動に役立つ。このほか、企業の人事採用担当者による模擬面接も学内でやっている。

文科省の学生支援推進事業に応募

本学のキャリアサポートセンター (センター長、総合政策学部 武田耕一教授) が進めている学生の就職支援を強化する取り組みが、文部科学省が推進している平成 21 年度の「大学教育・学生支援推進事業」に採択されました。

文科省は、大学の学士課程教育を従来の縦割りの学部教育とは異なるトータルな教育を行う課程と捉えて、その教育の質を高めるための取り組みや、就職支援など総合的な学生支援の取り組みを推進するため「大学教育・学生支援推進事業」の募集を行っていました。

文科省の募集に対して、本学ではキャリアサポートセンターが「初年次からの就業意識の醸成・キャリアスキルアップ」のプログラムを提出したところ、募集事業のうち「学生支援推進プログラム」として採択が決まったもので、3 年間に約 3,000 万円の補助金を受けることになりました。

初年次からキャリア形成意識を育成

採択されたプログラムの概要は次のとおりです。

「学生の就職マインドの涵養を図るとともに就業のための基礎スキルを身につけるためにキャリア教育を正規の学士課程教育に組み込み、実社会との接触を強化した実践的なプログラムとして、初年次から卒業時まで一貫して授業を積み上げるように編成する。」

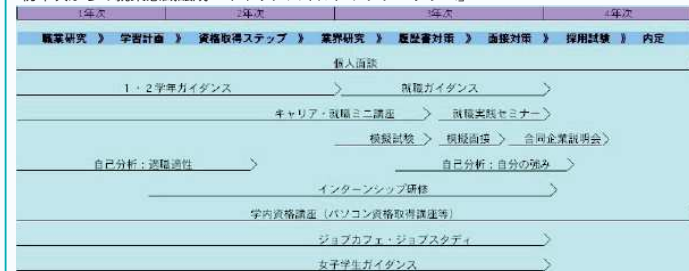
このプログラムはあわせて学生の学士力と就職率の向上を図ることもねらいとしています。

キャリアサポートセンターは、大学 3 年の後期から実質的な就職活動に備える学生サポート事業として、平成 19 年からキャリア形成意識を入学時から持つためのガイダンス、企業見学、資格取得講座などのプログラムをはじめ、適切な時期に各種メニューを重点事業として初年次から実施しています。

おもな支援プログラム

杏林大学 学生支援推進プログラム

「初年次からの就業意識醸成・キャリアスキルアッププログラム」



キャリアスキルアッププログラムのおもな内容は上の図のとおりです。
まず学生には毎年新学期ガイダンスで当年度の支援プログラム、キャリアサポートセンターの活用を紹介し、特に新入生には将来のキャリア形成を見据えた大学生活の目標づくりに重点を置いた内容にしています。

・個人相談

授業の合間にエンアグラムを活用して自らの職業適性をみたり、個人相談を受ける体制を整えています。模擬面接も行っており、多くの学生が来室しています。

・就職ミニ講座

3 年生を中心に少人数制で開講。就職活動の基本知識「自己分析」「業界・企業研究」「履歴書・エントリーシート」「面接試験対策」をレクチャーします。

・就職実践セミナー

人事採用経験のある専門講師が指導する集中セミナー。面接時のマナーや心構えを学ぶほか、グループでのディスカッションや面接を繰り返し体験する実践的な内容。採用試験本番に向けて面接力を強化します。

・ジョブ・スタディ

夏休みに行われる企業訪問の実体験 (企業理念、ビジネスの現状、実際の仕事見学、企業が求める人材の講義など) は全学年が対象です。

また、当センターが最も力を入れている「一人一人の学生との相談」や「社会体験」(ジョブ・カフェは企業から講師を招聘し学内で開催する講座、ジョブ・スタディは企業を訪問し実体験を通して就業意識を醸成) は全学年を対象としたプログラムです。

・女子学生ガイダンス

女子学生のために企業から女性講師を迎え、就職活動の心構えから、女性をとりまく労働環境や出産・育児と仕事の両立の仕方などについて学びます。

・学内合同企業説明会

就職活動中の 3、4 年生を対象とした就職企業説明会を年 3 回実施しています。特に 2 月開催の説明会には約 100 社が参加します。

・産学地域連携——模擬面接

八王子近隣企業と連携した 3、4 年生対象の模擬面接は、まさに就職活動における採用面接そのものです。

・パソコン講座

資格取得講座のなかでも 1、2 年生の受講が最も多いパソコン資格取得講座。当センターにて土・日に開催される集中的に取組む講座です。2 か月ごとに 1 ～ 3 級の検定試験が行われ、高い合格率を誇っています。

外国語学部「観光交流文化学科」開設

保健学部と連携、総合大学 杏林ならではの観光教育をめざして

政府が推進する「観光立国」政策のもと、観光分野における国際競争力をより一層高めるため、観光分野の専門性をもったリーダーの育成が求められています。

本学は外国語学部応用コミュニケーション学科に設置されていた観光文化コースを拡大・発展させ、2010年4月に観光交流文化学科（定員70名）を設置することを文部科学省に届け出て認められました。

本学での新学科設置は本年4月開設の保健学部理学療法学科に次ぐものです。

“観光立国”推進へ 求められる観光リーダー

観光は、忙しい日々を送る現代人にとって癒やしや生きがいであり、生活に潤いをもたらすとともに明日への活力を生み出してくれます。

国や地域を超えての国際観光は、相互に経済効果をもたらすだけでなく、異国の文化に接して国際性を高めるとともに、相互理解を通じて国際的な親善を深め、ひいては世界平和にも貢献するものです。

国際化の進展にともなう、日本人の海外旅行者は年を追うごとに増えていますが、一方で、外国からの観光客はそれを下回り、入国に比べて出国超過の状態が続いています。

こうした“国際観光の後進性”を打破すべく、2003年に小泉純一郎内閣の諮問機関として『観光立国懇談会』が開催され、「2010年までに外国人訪日観光者数を1,000万人に倍増させること」、それを支える専門の観光リーダーを育成するため「高等専門機関において観光関連の学部を新設すること」や「産官学の協力・連携体制を強化すること」が検討課題としてあげられました。2006年には「観光地及び観光産業の国際競争力強化に資する高等教育の充実」などを盛り込んだ『観光立国推進基本法』が成立、さらに2008年秋には観光庁が設置されました。

このような社会的背景の中で、大学における観光教育の必要性・重要度はますます高まりを見せており、将来性豊かな分野として本学でも新学科として開設し、観光教育の一層の充実を図っていくことにしたものです。

本学では2000年から観光教育

本学における観光教育は、2000年の外国語学部における観光系科目の設置から始まりました。ただ、観光教育といってもサービス産業論や観光地理などごく限られた科目のみで、担当する教員も観光産業から迎え入れた2人の客員教授と隣接する分野の専任教員、非常勤講師だけでした。

その後、2006年4月に外国語学部が3学科体制となり、応用コミュニケーション学科の中に「観光文化コース」が設置されました。

学内における観光教育に関する多くの議論を経て、学生や受験生からのニーズや社会的要請などから学部の内外で観光系学科設置の期待が高まり、2008年度に新学科の開設準備に至ったものです。

観光・ホスピタリティ産業は典型的な



今年8月7日～9日に開催された八王子まつりでは、JR八王子駅構内を含めた市内4か所で、会場案内や祭りの見所を案内しました。地元八王子の観光を研究テーマにしている学生たちにとって実践を兼ねた貴重な機会になりました。



金閣寺（鹿苑寺） 足利三代将軍、義満が造営した山荘を寺にした。1950年放火で焼け、1955年再建。1994年古都京都の文化財として世界文化遺産に登録された。年間150～160万人の観光客が訪れる。京都を代表する観光地の一つ。平成20年の京都への観光客数は5000万人を突破、うち外国人宿泊客数は約94万人と5年間で倍増し、韓国やアメリカからの宿泊客数が減少する一方、オーストラリアや欧州からの宿泊客数が大きく増加しているという。

労働集約型の産業で、大量の人材を必要とする一方、離職率が高い現状もあります。従ってこの分野に携わる人材には強い関心と適性、高いモチベーションが必須です。

4年制大学では現在、全国で40を超える観光系学部・学科がありますが、本学科は次のような特色のある観光教育を行っています。

本学科の特色

① 徹底した少人数教育 学生の就職先まで見据えて

定員70名に対して観光・ホスピタリティ分野を専門とする教員は6名以上。徹底した少人数教育とともに、学生と教員の距離が近いのが本学科の強みです。

また、学科の教育課程の中には、専門教育に加えて就業を意識した内容が盛り込まれています。エントリーシートの提出から筆記試験、面接、内定に至るまで、就職活動の一連の流れを体験する「就職活動シミュレーション」など、学科独自の就職活動支援プログラムも用意しています。入学した学生個々の状況や、教員との面談やキャリアカルテの作成などを通じてきめ細かく把握し、出口の見える教育を推進していきます。

② 充実した現場体験による 観光の体系的理解

学科の教員の多くが観光関連分野での実務経験があり、その人脈からホテル・航空会社などインターンシップの派遣先を数多く開拓してきました。学生がインターンシップに参加する割合は70%以上（観光文化コースでの実績）と極めて高く、派遣先には他大学にない高級ホテルが含まれるなど、充実した現場体験で観光ビジネスの実情を学ぶことができます。

国外では、既存のシンガポール、タイ、台湾、韓国での実習をさらに充実させていきます。また、シンガポールにあるホテルと観光事業を専門とする協定校へ留学するチャンスもあります。

観光交流文化学科は、コミュニケーション手段である外国語を重視するとともに、ふだんの学習から就職支援まで、学生一人一人の将来を見据えた徹底した少人数教育を行います。

また、豊富なインターンシップ（企業実習）プログラムや、保健学部と連携したオリジナル科目を設けるなど、他大学の観光系学部・学科とはひと味違った、総合大学 杏林ならではの観光教育を展開していきます。

者や障がい者の立場に立った、心のこもった対応が求められます。マニュアルどおりのサービスを押し付けるのではなく、お客様の立場に寄り添った対応は、世界で通じる真のホスピタリティにつながるものといえます。

④ 外国語重視の学習環境

本学の外国語学部では英語と中国語が必修です。「VISIT JAPAN 公式サイト」によると、2007年に日本を訪れた外国人旅行者のうち約30%は中国や台湾、香港などの中国語圏からで、英語とともに中国語は異文化の理解・交流の観点から重要な要素となっています。こうした外国語を学ぶ人文系学部には観光の学科が設置されているのも本学の特徴です。

観光教育の新分野開拓をめざして 新たな歴史づくりスタート

本学の礎である医学部、医学部附属病院・看護専門学校、保健学部は「よりよく生きるための環境を提供する」役割を果たしてきたといえますが、これは観光という社会現象が持つ使命と重ね合わせることができ、これまでの観光教育・研究では正面から取り扱われることのなかった「well-being（幸福、安寧）」という新しい分野を観光交流文化学科では切り開いて考えていきます。

2000年から始まった本学の観光教育は来春新たなステージを迎えます。新学科が全国の観光系学部・学科の中でも存在感のあるオンリーワンの学科となるように、学生・卒業生と教職員が一体となって新たな歴史づくりに取り組みたいと考えています。

3つの履修プログラム 「理論」と「実践」の両立

観光交流文化学科は、以下の3点を教育方針としています。

①異なる社会・文化に住む人びとと士の交流がもたらす新しい価値を理解し、十分な外国語運用能力を元にそれをより一層促進させ、大きな成果を生み出す人材を養成する。

②観光の現代的な役割や課題を理解し、観光関連産業を通じて交流・変容する社会・文化に貢献する人材を養成する。

③上質なサービスと空間がつくり出す価値を理解し、それを現代的な産業としての観光を通じて表現できる人材を養成する。

簡単にまとめると、国境や民族を越えた人びとの交流において、今後さらに重要な役割を果たす観光分野の発展に貢献する人材を育成することです。

この方針のもと、教室では、観光研究の最新の成果や人びとの交流によって生まれる新しい価値などを学びます。一方キャンパス外では、航空会社やホテル、旅行会社などの観光・ホスピタリティ産業へのインターンシップ（企業実習）や地域イベント運営補助などの実習に参加します。めざすは「理論」と「実



制服を身につけ、ホテルでベッドメイキングの技術を学ぶ。帝国ホテルインターンシップ。学生は真剣そのもの。



那覇空港での（株）JAL スカイ那覇のインターンシップ。空港での搭乗案内や各施設の案内補助を中心に研修を行っています。

践」の両立です。

教育スタッフには、観光・ホスピタリティ分野を専門とする実務経験者を配置し、長年培ったノウハウや以下の3つの教育プログラムを実現します。

**ホスピタリティ
ビジネス プログラム**
上質なサービスで旅先の感動や発見、安らぎの時間をつくるエアラインやホテル、レストランなど、「ホスピタリティ」がキーワードになるビジネスへの就職をめざす学生向けの教育プログラム

観光創造 プログラム
より豊かな観光体験を実現するために、安心して、快適な旅を支えるサービスを提供する旅行会社、新たな地域の魅力を発信し、発信する地域振興（行政）をめざす学生向けの教育プログラム

交流文化 プログラム
人びとの交流が生み出す新しい文化、それを支えるビジネスや諸活動に関心をもち、外国語力を活かして国際交流、海外ボランティア、国際機関、外資系会社をめざす学生向けの教育プログラム

学習支援 学習の手助け



「勉強がわからない」「何だか授業についていけない」といった時にはどうしたらよいのでしょうか。

6月に実施した学生実態調査では「授業の内容が理解できないときがある」という学生が15.6%、わからないとき「そのままにしておくことがある」という学生は17.1%でした。

もちろん科目担当教員に質問をすればよいのですが、何となく気遣いしてしまう学生もいるようです。

どの学生の学生であっても、勉強がわからないとき何と解決する手助けを得られる場所が必要で、学生にとってより学びやすい環境を実現し、学士課程教育の質を確保していくために、八王子キャンパスにふさわしい学習支援のあり方を整備していきます。

「いま困っている」という場合には、すぐさま教務課あるいは学生支援課にご相談ください。

総合支援 楽しく学び、杏林生活を謳歌

・情報発信

新入生にはハンドブックで大学生活に必要な情報を提供しているほか、在学生や保護者へは大学ホームページやリーフレットで学生支援センターの事業やお知らせをお伝えしています。

・各種調査

通学手段や時間、ボランティア活動の経験、食生活に関することなど、家庭や大学でどのような生活を送っているのか。今後の大学環境整備等に役立てるため、学生生活実態調査を実施。

あわせて快適な学びの環境の整備と教育のあり方を探索学習環境調査を実施。

・事業計画

学生支援活動全体の計画から実施までを担い、学生の成長をさまざまな面からサポートします。



学生支援の体制づくり始まる

学生支援センター長 黒田有子
(外国語学部教授)

杏林大学では、保健学部・総合政策学部・外国語学部の3学部で学生支援センターが設置されました。一人一人の学生が学生生活の質を高め、学力のみならず人間力や社会性を培い、全人格的な成長を促すことが学生支援センターの使命です。

学生生活に馴染めずに不登校になったり、また勉強意欲を失って中途退学に至るようなことがないよう、一人一人の学生が自分にとって有用な情報をつかみ、学内の豊富な人的資源にアクセスすることによって大学の中での絆をつくり、居場所を見つけられるようサポートをしたいと考えています。

悩みや不安をもっている学生もいれば、周囲の人たちのために自分の持っている力を存分に発揮したいと考えている学生もいます。若い学生のパワーから新たな力を引き出して、それぞれの達成感に繋げていきたいと思えます。

学生支援センターは、あらゆる学生のニーズに対応できるように学生をよく知り、適切に情報を発信していくことで、快適なキャンパスづくりに取り組んでいます。

すべての入学生が大学生活に対してポジティブな手応えを得られるよう、学生生活のさまざまな環境を整備しているところです。大学が正課以外にもいろいろな体験を通して学生が成長できる多種多様な場を提供していることをご紹介します。

学生相談 何でも相談窓口

学習のこと、生活のこと、進路のこと...一人で考え込まないで！相談内容により担当の教職員が即座にお会いします。

○メンタルヘルスへの取り組み

一般に青春と呼ばれる大学生の年代は、考えたり、悩んだりすることが人生の中で最も多い時期です。さらに多様化した現代社会においては、うつ病の治療を受けている方も100万人を超えています。

本学でもこうした社会状況をふまえて、新しい環境への適応障害とされる5月病や、さまざまな心の問題をかかえた学生に対応しています。ストレス対処や問題解決のスキルとともに、心の成長とアイデンティティの確立、悩みや落ち込みから立ち直るレジリエンス(弾力性すなわち回復力)に富む学生が育つキャンパスづくりをめざします。

(学生支援センター総合相談部門長 田島 治)

心が元気でないときは...学生相談(カウンセリング)室

学生の心の健康に関する相談にのります。心の健康は、健康なときには気づかないものかもしれません。

でも健康を失いかけると、「落ち込んでいる」「イライラする」「落ち着かない」「不安」といった感じがしてきて、心が元気でないと気づくでしょう。

そんなときは学生相談室を利用しましょう。

開室時間：(八王子キャンパス) 月曜日 12:30 - 17:00、木曜日 9:00 - 17:00
金曜日 13:00 - 17:00
(三鷹キャンパス) 火・水・金曜日 13:00 - 20:00
土曜日 9:00 - 12:00

教職員による学生相談体制の確立

日常的に学生と接している教職員もそれぞれの立場で助言したり、専門家への橋渡しができるように、研修会を開いて体制の確立に力を入れています。

○学生の健康管理

健康管理を予防医学の点からみると、「病気になる前(第1次予防)」、「早めに見つけて治療する(第2次予防)」、「疾病の悪化防止(第3次予防)」からなります。保健センターでは、より良い生活習慣を保持するため、第1次予防として、学生に対する健康教育を、第2次予防として健康診断を、第3次予防としてケガや病気のアフターケアを行っています。

(八王子保健センター長 黒屋 浩司)

保健センターのご案内

毎年4月に学生が受診する健康診断の事後指導、喫煙や生活習慣病、エイズ/HIVについて知識を深める各種イベントによる健康教育を行っています。体調不良学生への対応や、けがをした際の応急処置も行っており、必要であれば、校医による診察、近隣の医療機関を案内しています。

開室時間：平日 9:00 - 17:00 土曜日 9:00 - 13:00

留学生支援 がんばれ留学生

・留学生交流会

国際交流センターでは、本学に留学中の学生と日本人学生や教職員が交流を深める場として、毎年「留学生を助ます会」を開いています。サークル・団体の活動を披露し合ったり、学生や教職員と楽しく交流できる場となっています。

10月14日には、課外活動や委員会活動とおとして留学生に大学生活を楽しんでもらおうと各団体が情報提供などを「国際交流の集い」が開かれます。



同窓会支援 杏林のきずな



学部ごとの自主組織の運営ではありますが、卒業後も杏林とのきずなを更に深める取り組みを図っていきます。今頃から大学新聞をお届けします。

課外活動支援 仲間と学生生活を楽しもう！

○学生が運営する「心の相談室」

学内外のボランティア活動



保健学部では、ボランティアを通して様々な子ども達と関わっています。その中で、私は4年生と3年生と協力し合い、学生達の手で近隣の小学校の「心の相談室」という部屋を運営しています。心の相談室では、子ども達と一緒に遊んだりお話をしたり、養護教諭の補助をするなど様々な活動を行っています。来室する子ども達がかかっているものは様々で、全く同じということはありません。従って、子ども達に対して同じ接し方をするのではなく、一人一人と向き合いながら、子ども達の学校生活がよりよいものとなるように支援を行っています。

(保健学部4年 松崎敬子)

○杏ジャム作りで地域の方々と交流を深める



去年に続き、6月13日に宮下町会(八王子市)の方々と大学に招いて、構内で収穫した杏の実を使ったジャムやケーキ、クッキーなどを作りました。町会の方々は昨年のこのイベント以来、久しぶりにお会いしましたが、いつも通りに接していただいたことにすごく感動しました。ほっとした気持ちになり、本当に地元にいる気分にならせてくれる方々だなと思いました。

大学の近くには私たちが温かく迎えてくれる人がたくさんいるので、杏林の学生にはこのような交流に参加してもらいたいと思います。自分の人生観が変わるいろいろな話を聞くことができますよ。

(総合政策学部4年 高橋寛史)

○学生企画の社会科見学ツアーなどで見聞を広める

学生の自主的活動

学生の視野を広げ、3学部間の交流、学生と教職員の交流を促進する社会科見学ツアーは学生が企画し、教職員が支援する新たな取り組みです。

昨年2月の国会見学ツアーをはじめ、築地市場見学、鎌倉探訪ツアー、野菜料理教室と4回実施しました。

築地市場見学には留学生も多く参加し、「せり」などに「日本文化を感じた」ということです。保健学部の学生は、衛生管理の視点で市場の運営を見つけていました。見学の前には、レトロな雰囲気も残る月島地区を散策しました。

9月10日にはGHQ占領下に活躍した白洲次郎の邸である武相荘見学ツアーも予定しています。



○大学のイベントや催しの企画運営に携わってみたい

委員会活動

○たくさんの仲間を作ろう

杏林のクラブ・サークル

八王子キャンパスでは、1,546人の学生が55のクラブ・同好会団体(クラブ:34・同好会:21)に所属しています。

そのクラブ・サークルの代表者が集まり各々の活動情報を交換することで、連携した運営や相互に協力できる体制を整えました。試合の応援や活動の拡大に教職員が支援していきます。

保健学部学生会、総合政策学部ゼミナール連絡会、外国語学部学生会連絡会は新生歓迎イベントや学園祭への学部イベントの企画・運営を行っています。毎年5月下旬に行われる八王子キャンパスをあげてのビッグイベントである新生歓迎スポーツ大会や、学園祭(今年は10/31・11/1開催)で実行委員として活動してみませんか。このような委員会活動を支援しています。

経済支援 入学から卒業まで受けられる支援は？

・奨学金を受けるには？

杏林大学奨学金、日本学生支援機構、その他地方自治体の奨学金、各種奨学金があり毎年4月に募集します。家計急変などのご相談は学生支援課窓口へ。



・学納金はどう支払うの？

4月(前期)と9月(後期)、2回に分けて本学の指定する銀行口座へ振り込んでいただきます。延納(3ヶ月まで)制度があります。

・どんなアルバイトがあるの？

学内外でのアルバイトを紹介しています。一例として、入試・オープンキャンパス時に募集する入学センターでのアルバイトなどがあります。

学生生活支援 身近な生活支援

・通学のこと

(バス通学)

八王子キャンパスでは3分の1以上の学生がバス通学をしています。バス会社との交渉で2008年4月に新路線を開拓して乗車時間の短縮と運賃の値下げを実現しました。

今後もさまざまな働きかけを続けることにしています。

(バイク、自転車通学)

2008年に自転車駐輪場、2009年3月にバイクの駐輪場が完成しました。安全運転を心がけ、通学してください。



・アパート紹介

八王子、キャンパス周辺にアパートを探す学生のお手伝いをしています。

・食堂、売店

八王子キャンパスには2つの学生食堂があり、日替わり定食や麺類、週替わりのイベントメニューなどを提供しています。このほか弁当の販売やコンビニが学生の食生活をサポートしています。

ホール杏(学生食堂)には書店や、ATMもあります。

保健学部30周年を機に 歴史を踏まえ新しい一歩

保健学部教授 森田耕司

(杏里会会長、杏林短期大学第9期生)

杏林大学保健学部は、本年4月、開設30周年を迎えました。1979年4月に臨床検査技術学科と保健学科（現健康福祉学科）の2学科、入学定員100名でスタートし、いまや看護学科、臨床工学科、救急救命学科、理学療法

学科の4学科を加え計6学科、在学生1388名の医療・保健・福祉系総合学部成長しました。30周年の節目を迎え当学部は一層の発展をめざしています。

保健学部 6学科体制へ

本年度、保健学部は開設30周年を迎え、さらなる飛躍の第一歩を踏み出しました。八王子キャンパスの理学療法学科は本年度の開設であり最初の新入生を迎えました。高齢化社会を迎えているなかでリハビリテーション医療のニーズが高まっており理学療法学科の役割が期待されています。

臨床工学科は4年制大学として東京では最初に新設された学科であり、来年3月に最初の卒業生を社会に送り出します。医療現場は優秀な臨床工学技士を待ち望んでいますが、当学科はそれに対応できる人材・専門家を育成しています。

保健学部開設30周年を機に、看護学科が三鷹キャンパスに移転しました。教員、学生合わせて約450名が移動しました。看護学は実践の学問と言われるように、病める人がいてこそ成り立つ学問です。三鷹キャンパスには医学部付属病院があり、看護学を修めるための最適の条件が整いました。

臨床検査技術学科、健康福祉学科、救急救命学科も、新入生を迎え、キャンパスには活気が満ち溢れています。

希望に胸を膨らませて入学してきた1年生、大学にも慣れ大学生生活を謳歌しながら日々努力を怠らない2年生・3年生、不況という言葉に内心ドキドキしている4年生など、学生一人一人が置かれている立場は違いますが、将来を見据え、誠心誠意努力していることが学生たちの眼差しからうかがうことができます。

教職員一同が学生一人一人を大切に、「正しい大学」「面倒見の良い大学」という評価をさらに高めて行くよう努力しています。

30周年記念パーティ11月に開催 卒業生と保健学部のパイプ役杏里会

保健学部開設30周年を記念して、本年11月14日（土）、午後5時30分



上は「杏林学園15年史」掲載写真

中庭を囲むように造られたK棟の3つの建物は渡り廊下で縦横に結ばれている。ここでは看護学科以外の5学科の学生が学んでいる。真正面に見える研究棟の8階の窓からはキャンパス内はもちろんのこと、近くは丹沢や秩父の山々、遠くは富士山が眺望できる。

1棟（左）とH棟。1979年開設当初の保健学科校舎の様子。H棟は当初医学部進学課程として、その後保健学科校舎として使われ、1999年に解体されるまで八王子キャンパスで最も古い建物だった。1棟の赤い時計台にはまだ大時計は付いていない。今ではこの時計台に、クリスマスになるとイルミネーションが点される。1棟前には杏の樹などが生い茂り、初夏には杏の実が、夏には涼しげな緑陰が目を楽ませてくれる。



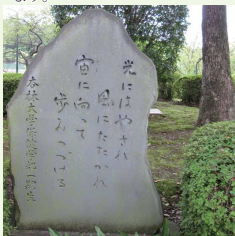
ら、東京新宿の京王プラザホテルで保健学部杏会（父母会）および杏里会（同窓会）の合同で「保健学部開設30周年並びに杏里会開設25周年記念パーティ」を開催します。大学関係者、保健学部の発展を支えた旧教職員・杏会、卒業生、その他保健学部縁のある人たちが一堂に会して盛大なパーティが行われる予定です。

保健学部の卒業生は本年3月で4,599名になりました。1983年9月、保健学部第1期卒業生と杏林短期大学第1期～第13期卒業生1,678名の合同同窓会組織として杏里会（きょうりかい）が創立され、昨年25周年を迎えました。杏里という会の名称は、社会に巣立っていく杏たちの心の拠り所、杏の故郷（郷里）という意味がこめられています。

保健学部開設、1期生111名

1979年に保健学部が開設されました。その記念すべき年の前年に成田空港が開港し国際線が羽田から移りました。翌年の1980年は、WHOが痘瘡（天然痘）根絶宣言をした人類史上記念すべき年でした。

杏林学園短期大学衛生技術科で始まった2年制の衛生検査技術教育は、1973年に3年制の臨床検査技術教育へと変わり、1981年には第13期生が短期大学最後の卒業式を迎えました。この間に巣立った卒業生は1,678名。杏林学園短期大学は「発展的解消」し、臨床検査技術教育の伝統は保健学部へと確実にバトンタッチされました。教育の場は三鷹市新川から八王子市宮下町に移り、名実ともに新たなスタートを切りました。現在、八王子キャンパスの中央には、短期大学第11、12、13期生から寄贈された「杏林短期大学記念碑」があります。その傍らには「光にはやさしく風にはたかれ宙（そら）に向かって歩みつづける」と刻まれた保健学部第1期生寄贈の記念碑があります。この2つの碑は保健学部と杏林大学の発展を見守っています。



保健学部ができるまで 東京三鷹新川総合病院、東京医学研究所、杏林学園短期大学、杏林大学医学部、保健学部

保健学部の実質的な歴史は学校法人杏林学園の設立から始まります。杏林学園のルーツは東京三鷹新川総合病院（病院長松田進勇先生、学校法人杏林学園初代理事長・学園長）であり、1954年1月26日、東京都三鷹市新川854番地に開設されました（現在は三鷹市新川6丁目20番2号）。1964年10月、病院の中に東京医学研究所が設置されましたが（初代所長野辺地慶三先生、杏林学園短期大学初代学長）、これが短期大学の実質的なルーツです。松田進勇先生には以前から衛生検査技術（現在の臨床検査技術）教育関連の学校設置の構想がありました。杏林学園短期大学設置にあたっては、野辺地先生を中心に勝目卓朗先生（東京三鷹新川総合病院中央検査部長と東京医学研究所化学部長を務めた杏林学園短期大学教授、二代目学長を経て保健学部初代学部長）、志賀鑑時先生（東京医学研究所細菌部長を務めた杏林学園短期大学教授を経て保健学部教授）ら11人の先達が多くを困難をもとめず周到な準備を重ね貢献されました。

志賀先生は次のような記録を残しています。「昭和40（1965）年の10月5日に申請書が提出（当時の文部省、厚生省に）された訳ですが、事務的なことについては、11人で分担しました。もちろん分担された人だけではなく、病院、検査部の職員にも協力を頂きました。それはそれは大変なことでした。短期大学設置が認可された1月25日、いよいよ短期大学として旗揚げした訳ですが、先ずは地元の高校への進学勧誘挨拶が行われました。2月20日に推薦入試が、その後には一般選抜が2回予定されているので不安は募る一方でしたが、定員を2倍も上回る応募があったので、関係者は安堵したものでした。このときの産みの苦しみは、その後の保健学部開設への原動力に繋がったと思います。」

1966年2月24日の朝日新聞、毎日新聞、読売新聞の全国版に杏林学園短期大学の学生募集広告が掲載されました。そして同年4月、1期生63名が入学しました。

1970年に杏林大学医学部が開設されました。二代目学長山本都夫先生は、短期大学と医学部の関係をしばしば「一姫二太郎」という言葉で表現されました。

1979年4月10日、杏林学園の歴史に残る合同入学式が挙行され、医学部第10期生104名、医学部付属看護専門学校第5期生77名、保健学部第1期生111名が杏林の人となりました。

第1期生は何故にもエネルギッシュであり、手作りの学生生活を楽しましました。保健学部のアットホームな校風はそこで育まれ現在に引き継がれています。八王子キャンパスのグラウンドで行われたソフトボール大会で、初代学部長の勝目卓朗先生の豪快な三振が皆の笑いを誘いましたが、そんな温かい古き良き時代を懐かしむ卒業生も少なくないでしょう。

1983年3月、保健学部第1期生は、医学部第8期生、看護専門学校第6期生とともに杏林を巣立って行きました。この年は青函トンネルの先進導坑が着工以来19年の歳月をかけて貫通した年でもありました。

大学院開設

1984年4月1日、大学院保健学研究科博士前期（修士）課程が開設され、7分野（人類生態学、保健管理学、成人保健学、疫学、保健病理学、保健微生物学、分子生物学）の、その2年後には博士後期課程が開設され、前期課程を統合した4分野（保健管理学、疫学、保健病理学、分子生物学）の教育・指導が始まりました。授業全体の構成と前期・後期課程の体系は、学科目制をとる保健学部の教育体系を生かして、複数の研究室が各分野を支える構造になっており、学問的視野を常に広く保つシステムを特徴としてスタートしました。

その後、大学院の体系は保健学部の学科構成の発展に伴って広がり、現在、博士前期課程は保健学専攻と看護学専攻の2専攻となり、保健学専攻は学部学科に対応した4分野（臨床検査・生命科学分野、健康・福祉科学分野、臨床工学分野、

救急救命学分野）に再編されました。新たに設置された看護学専攻は2分野（地域保健看護分野、看護ケアマネジメント分野）の教育・指導が始まっています。

看護学科三鷹に移転 期待される臨床との協働

「看護は実践の科学である」と言い古されてきた表現とは裏腹に、大学での教育は臨床での実践とかけ離れているものが多いことが看護教育における今日の課題となっています。

看護学科は医学部付属病院と隣接することにより、医療スタッフと日ごろから接することができ、経験豊富な医療職者の指導を受ける機会が増え、早期から看護への興味・関心が高まることなどを期待し、今年3月、八王子から三鷹へと移転しました。

救急救命学分野）に再編されました。新たに設置された看護学専攻は2分野（地域保健看護分野、看護ケアマネジメント分野）の教育・指導が始まっています。

看護学科開設から現在まで

1994年4月1日、保健学部新たに看護学科が開設されました。わが国の看護系大学として27校目の本学看護学科の開設は、勝目卓朗先生が現役最後の仕事として成し遂げられたものです。勝目先生は同年9月7日、本学医学部付属病院で逝去されました（享年68歳）。それは先生が誰よりも心待ちにされていた保健学部新校舎（現在のK棟）竣工式の2日前のことでした。

保健学部は着実に成長し続け、2006年4月には臨床工学科、翌年4月には救急救命学科が開設され、保健学科の名称が健康福祉学科に変更されました。本年4月には看護学科が三鷹キャンパスに移転し、新たな環境での教育が始まりました。また八王子キャンパスには理学療法学科が開設されました。

杏林大学保健学部は、現在、臨床検査技術学科、健康福祉学科、看護学科、臨床工学科、救急救命学科、理学療法学科の6学科を擁する医療・保健・福祉系の総合的な学部となりました。開設30周年は、保健学部の歴史に関わってこれた多くの先達の苦勞に感謝するとともに、今後の進むべき方向をしっかりと捉える機会といえるでしょう。

医にあつては「仁」、保健にあつては「あらゆる人に健康を」

20年前の1988年、保健学部開設10周年記念として刊行された『杏林大学保健学部十年誌』の中で勝目先生が綴られた次の文章（序文の一部）は、保健学部が今後10年、20年、さらにその先へと進むべき方向を示されたものといえます。（以下原文）

大学の使命は、真理の探求の面もあることを否定はしないが、良識ある職業人を作るところも肯定しなければならぬ。それは、あたかも教員が、研究と教育を両輪のごとく併せ持つようなものである。

思えば、現在ほど、教育し難い時代はあるまい。われわれは、学生を通して、魂を忘れ、ひたすら豊富な物質に没頭してゆく現日本、あるいは世界状況と対面しているわけである。ただ一つの方法、理念のみで処方できるとは思わない。あらゆる処方を考えなければならぬ。

ただ、いかなる時代になろうとも、根本にある真理、哲学理念は変わることがない。医にあつては仁、保健にあつては「あらゆる人に健康を」という悲願である。この大慈、大悲のもとに、つねに立ち戻り、ここからつねに出発すべきであろう。

移転により、教育と実践の乖離を回避するための方策として臨床と看護学科の連携と協働が現実味を帯びてきました。付属病院看護部門と看護学科の教育に関する協働の試みの1つとして6月初めに、1年生の学内講義に看護部長、本学科卒業の看護師に参加していただきました。講義への反響は大きく、看護への興味と親近感が深まったようです。

看護学科は臨床と協力なくしては成り立ちません。三鷹移転を機に教育と臨床とのギャップを少なくし、学生にとっての適切な役割モデルを提供する取り組みにより、教育と実践をより質の高いものへと発展させることを目指しています。

（看護学科教授 今留 忍）

学部・大学院トピックス

医学部

新入生オリエンテーションを3日間に拡大

医学部は平成20年度から新入生オリエンテーションを3日間に拡大しました。目的は、①学生生活に必要な情報を伝えること、②医学部入学の目的を再確認し、将来を見据えて学生生活を送るという意識を持ってもらうこと、③同級生や担任とよい人間関係を作るきっかけを提供すること、などです。「他己紹介」(ペアの相手をクラスメートに紹介する)



グループでのディスカッション風景。「良い医師になるためには」というテーマのもと、それぞれが意見を出し合い、最終的に他の学生の前で発表しました。

医学部付属病院

がんセンターの1年を振り返って

当病院が北多摩地区の東京都地域がん診療拠点病院に指定されたのを受けて、がんセンターが去年4月に発足し、システム作り、土台作りを続けてきました。当がんセンターは、外来化学療法室、化学療法病棟、がん相談支援室、緩和ケアチーム、がん登録室、レジメン評価委員会、がんセンターボードとなり、それぞれの部署で、医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、事務などが有機的に協働しており、

をはじめとして、できるだけ講義形式を避け、参加型のものを多く取り入れました。

②に関係するセッションとして、「良い医師とは」というテーマでKJ法(カードを使用した発想法)を用いてグループの意見をまとめました。どのグループも立派なプロダクトを作りました。その他に、「キャンパススタンプラリー」、目隠しして歩くクラスメートをサポートする「ブラインドワーク」、「接遇研修」、「歓迎パーティ」など盛りだくさんのセッションがあり、最後に神津忠彦東京女子医科大学名誉教授の講演「医師の使命」で締めくくりました。

それから「グループ・プロジェクト」を新入生に提起しました。これまでも解法もあらかじめ決まっている問題の解決能力をひたすら磨いてきた新入生諸君に、自分たちで目標を決め、解決法も自分たちで考える経験をしてもらうのが目的です。11月14日の発表会をめざして、プロジェクトのテーマが決まりつつあります。

新入生たちが、入学時の燃える向学心を忘れず、高い目標をめざして6年間の学生生活を送ってくれることを心より望みます。(医学教育学教授 赤木美智男)

活動の質・量が大きく成長したと自負しています。去年12月には外来化学療法室が14床に拡張され、同室の扱い例数も約半年で420件に達しました。また、今年6月には東京都北多摩地域緩和ケア研修会を開催し、都内からの参加を含め23名の医師が参加しました。

もう一つ特筆しておきたいのががんセンターボード(診療科の垣根を取り払い、医師や各分野のがん医療に携わる専門家が一堂に会し有効性の高い集学的治療法を決定する組織)の充実です。ほぼ毎週月曜日夕方から、複数の診療科により、治療方針に迷う症例の検討会が行われ

看護学科移転で 医学図書館を拡充

医学図書館は、保健学部看護学科の三鷹キャンパス移転(平成21年4月)による学生数の増加に対応するため、改修を行いました。1975年の建築以来、医学図書館は部分的な改修を行ってきましたが、本年4月からは学生が約500人増えるために、座席数と書架を大幅に増やす必要があり、そのため改修は平成20年7月から12月までの半年間にわたる大規模なものになりました。

その結果、座席は90席増の271席に、書架は21連増で約3800冊多収容できるようになった他、木材家具専門店の手作りによるムク材の机・椅子の導入、トイレの全面改修といったアメニティ面の向上を図りました。さらに2階の机81席で個人のノートパソコンをLAN接続可能とする機能面での改善を行い、利用の動線に合わせた大がかりなレイアウト変更もしました。快適な学習空間を提供できるようになりました。(医学図書館課長 諏訪部直子)



キャンサーボードの症例検討会の様子。キャンサーボード主催の勉強会も開かれ、他の領域の治療の最先端を学び、討論を行っている。

ています。(がんセンター長 腫瘍内科教授 古瀬純司)



2階のパソコンエリア。予習・復習に常設の24台のパソコンを利用する学生たち。館内の机には学内LANに接続できるコンセントがあるので、自分のパソコンを持ち込むこともできる。写真右上の大型ディスプレイには新刊図書案内などが情報提供される。

杏林大学病院を語る

・発行元
・定価
・3千円・税別
・インクスターズイカ



「杏林大学病院の医療の質」をテーマにした本を作りたいという東京原二病院長の提案で、1年前から病院の全部署・診療科の協力を得て編集作業を進め、この7月、発行にこぎつきました。

全86項目が項目ごとに見開きで完結するようになり、一般の方が医学書典のようにも調べられるスタイルにしました。

地域に根ざした病院として「杏林大学病院の素顔」を地域の皆さんにもっと知っていただきたい、そして我々職員も自らを振り返ってより高い質の医療を目指すという願いを込めた本です。(編集委員 古瀬純司)

保健学部

理学療法学科がスタートして5か月

病気や障害の機能回復と日常動作等の維持や改善を図る理学療法士を養成する理学療法学科が2009年4月、保健学部誕生しました。2009年度入試で10倍を超える難関を突破した49名の1期生は、少しずつ大学生活に慣れてきているようです。

一方で、前期の授業においては、高校時代とは学習内容や学習方法が異なることから戸惑っている学生もいます。

1年生はこれからの学習の基礎となる科目が多く、今の時期の学習が非常に重要になります。学習の目標を見失わず、一夜漬けの学習ではなく、将来の自分をイメージした確実な学習習慣を身につけることが大切です。

9月に三鷹キャンパスの医学部第1解剖学教室で実施する解剖人見学実習では、実際に人体を見学することにより、学習に緊張感が生まれ、より確実な知識が求められていることを自覚します。同じく杏林大学病院のリハビリテーションセンターや、小児科の施設を見学します。このような見学は4月から現在までの学習やこれからの学習を見つめ直すよい機会となることでしょう。(理学療法学科教授 斎藤隆彦)

収穫の大きかったカナダ研修

今年で4回目となる保健学部の語学研修が1年生から3年生までの8名が参加して、この春16日間にわたって、カナダ・バンクーバーのランガラ・カレッジで実施されました。研修プログラムは、毎日みっちり英語を学んだ上で、カナダの保健・医療・福祉施設を見学したり、同カレッジの看護コースの学生実習をカレッジの学生と共に体験したりして、両国の保健・医療・社会福祉環境を学ぶという内容です。この間、学生たちは1〜2名ずつホストファミリーにお世話になり、まさに英語漬けの日々を過ごしました。初めは簡単な質問にも英語で答えることに苦労していた学生たちでしたが、研修一週間後にはカレッジの学生とお互いに英語や日本語を教えあうなど、和やかに会話が出来る程度までに上達していました。また、ホストファミリーのもとの生活や学生同士の交流を通して、カ



ナダの文化を肌で感じ、単に語学の研修だけではなく貴重な経験を積んだようでした。参加した学生たちにとっては、学科や学年の垣根を超えてお互いに協力し合うことで新しい人間関係を築くことができたことも大きな収穫だったと思います。プログラム最終日の成果発表では皆が自信にあふれた表情で発表していたことが今も印象深く思い出されます。(臨床検査技術学科講師 村田麻喜子)

在校生リレー エンジョイ☆杏林 Life

来年も、富士山清掃登山するぞ

総合政策学部3年
カンデル・ナラヤン・プラサド



富士山5合目で撮影。いよいよこれから清掃登山がはじまる。まだみんな元気で笑顔だ。右端が私。

ネパールから日本に来た私はカルチャーショックの連続でした。そのうちの1つが「ゴミ」です。街の至る所にゴミが捨ててあるのを見て驚きました。日本語学校在学中、私達留学生が日本のために貢献しようと考えて、街のゴミ拾いを開始しました。

翌年私は杏林大学に入学し、feelというボランティアサークルに入会しました。今年4月、私のfeel代表就任を機会に活動をボランティア中心に変えたため、約50人いたメンバーが13人に減りましたが、杏林大学ナンバーワンのボランティア活動団体を目指し頑張っています。

feelではこの6月にJR八王子駅〜西八王子駅間の甲州街道3kmの清掃活動を行いました。市民交流団体NBAsにも声を掛け、市役所経由でマスコミでも報道され、多くの八王子市民が参加しました。7月には杏林大学八王子キャンパスを清掃しました。

8月2日には富士山清掃登山を行いました。参加者したのは、杏林大学生、市民サポーター、大学職員など21名。高尾駅に午前1時半集合し、車で富士山5合目(須走口)に向かい、ご光を拝んだあと、5時半から登山始めました。幸か不幸かゴミはあまりありませんでした。6合目の手前から雨が降り出し、大荒れになりそうだったので、残念ながら7時に下山を開始しました。帰途、山中湖近くの道志の湯で全員疲れを癒しました。来年もまた仲間と富士山清掃登山をしたいと思っています。

卒業生リレー

ある日の保健室

公立高校養護教諭

馬場 智子(保健学部2002年卒)



保健室によく来る女子生徒が描いてくれた似顔絵。時々保健室が発行する「保健だより」にも協力してくれます。

8:25 朝の打ち合わせ 今日どんなことがあるかな?
8:40 来室1号「先生お腹が痛いです」。その後頭痛が痛い、ケガをした、と来室が続く。合間をぬって合宿医の準備。
12:40 昼休み「先生見て!身長が伸びたよ!」「先生ここにいさせて」「保健室ってなんか落ち着く」と和気あいあい。元気のいい1年生に大丈夫?と声をかける2年生も。
13:25 5時間目 泣きながら「教室へ行かせません」と2年生。1時間話を聴き、笑顔になって「頑張ってください」
15:20 放課後 保健委員を招集し、今年のカultureは何をしようか?
16:00 会議、先生方と立ち話、資料の準備、入力、等々。
17:10 勤務終了。今日は何時に帰れるかな?

保健室には毎日たくさんの生徒が来て色々な話をしてくれます。相手は高校生ですが、自分の変化や成長を報告に来る姿はとても微笑ましく、と同時に自分の気持ち

を誰かに分かって欲しい、という思いも伝わってきます。一見いつも笑顔ではつらつとしているが、苦しい思いを一人でかかえ、崩れないように精一杯耐えている生徒にも多く出会ってきました。

そんな時、もどかしいことも多々ありますが、少しのヒントと解決の糸口があれば、彼らは自ら乗り越えていく力強さも持ち合わせていることに気が付かれます。保健室でできることは少しかもしれない。けれど高校3年間でたくさん悩み、自ら解決する力を身に付けて、逞しくなって卒業していった欲しいと願っています。

私は大学に入ってから進路に悩み、辞めようかと思った時期がありました。けれど周りには相談できる友達や先生がいてくれて、そして今、養護教諭という仕事に巡り合えたことを、本当に幸せに思います。

総合政策学部

看板授業「学際演習」をオープンキャンパスで開講

7月25日のオープンキャンパスでは「ファストファッション成功の秘密を探る!」というテーマで経営学、会計学、経済学の立場から解説。8月8日は「環境問題とハイブリッドカーの未来」として経営学、法学、環境経済学の立場からそれぞれの教員が解説しました。そのエッセンスを紹介します。

「ファストファッション成功の秘密を探る!」 1着1980円のニットは、ブランド品と呼べますか?



○経営学の立場から 木村有里准教授が解説—

値段が安い服はたくさんありますが、その中でも圧倒的な人気を誇っているブランドに共通している点は、「品質」「スタッフの接客態度や豊富な商品知識」「新コンセプトの提案」「体型にあった豊富なデザインと品揃え」など低価格+αの価値。これがファストファッションを、トップブランドに押し上げたといえるでしょう。

消費者の心を捉える切り口は様々。自由な発想とクリエイティブな精神を養うことも経営の学びの一つです。

○会計学の立場から 内藤高雄教授が解説—

ファストファッションにおいて言えることは、企画・製造・販売までの時間がはやくいこと。そして「多品種少量販売」方式をとり、毎週のようにすべての商品が入れ替わるなど商品の回転がはやくいこと。そのような商品の切り売りにより、毎週のように新商品を投入することで、「今買わなくては」と各に思わせること。

このような経営の構造改革が、ファストファッション戦略を可能にしたのです。

○経済学の立場から 西孝教授が解説—

手頃な物を頻繁に買い換えるスタイルが主流となった現代では、低価格、豊富なデザインといった要素を基準にして商品を選びます。このように人がものをとる理由と、その結果を明らかにすることを「行動経済学」と言います。ファッション業界では消費者のブランドに対する価値変化がファストファッションというカテゴリーを確立させました。オシャレだと多くの人が信じ、それを着る人が増え流行になり、ますます人気を集める・・・経済学ではこれを「ネットワークの外部性」と言います。流行を経済学的に解き明かすと、世の中の仕組みが見えてくるのです。

「環境問題とハイブリッドカーの未来」 ハイブリッドカーは「水と緑の惑星」の主役になれるのか?



○経営学の立場から 田中信弘教授が解説—

世界に先駆け、ハイブリッドカーの量産発売を可能にした自動車メーカーは、環境と自社ブランドの強みを視野に入れた明確な経営方針のもと、部門横断プロジェクトによる開発力と製造力により技術革新を進めました。

いま、世界の各メーカーは低価格のハイブリッドカーの開発や、電気自動車など次世代車の開発・研究に力を入れています。業界をリードするには企業の経営や管理の体質も重要なポイントです。

○法律学の立場から 岩隈道洋准教授が解説—

自動車排ガス規制で有名なのが、1970年に米国で立案された「マスキー法」です。生産車の排ガス水準を一定期間内にそれまでの1/10にするとする法案に、産業界が抵抗し結局廃案。企業の現状を踏まえた法案作りが必要だったのですね。

日本では、排ガス濃度の基準を超える車種の製造・輸入等を認めない単車規制、同様の基準を車検に入れた車種規制、車種等基準に一定地域での走行を規制した運行規制等で排ガス規制を行っています。今後は企業活動と環境への配慮を実現できるバランスのとれた規制を探っていく必要があります。

○環境経済学の立場から 齊藤 崇講師が解説—

日本では工場などの産業部門に比べ自動車などの運輸部門でエネルギー消費量が増加しています。自動車利用によるエネルギー消費を抑えることはCO₂削減に大きな意味を持ちます。また、石油は有限な資源です。ハイブリッドカーなどのエコカーの利用は地球温暖化問題と石油資源の問題双方に良い結果をもたらすと期待されます。さらに自動車減税やエコカー補助金など、環境を守ることに得になるような「社会のしくみ」を作ること重要です。環境ビジネスが拡大し、多くの人が利用することで経済的にも環境的にも良い効果が見れるでしょう。

これら2つの学際演習に参加した高校生からは次のような感想が聞かれました。
「普段何気なく着ている洋服を作っているために、企業がどうしているのか、仕組みが良くわかった」
「ハイブリッドカーの良さや、社会のいろいろな活動につながっていることが良くわかった」
「総合政策ってなんだよくわからなかったけど、学ぶ内容がかわってきました」
「1つのテーマについてそれぞれの視点から経営戦略を考えていくことがわかった。大学の授業は奥が深い」

外国語学部

2泊3日の夏期英語合宿を開催

実践的な英語力を養うための英語合宿が、今年も8月4日(火)から5日間、八王子セミナーハウスで行われ、1・2年生を中心に47名が2つのセッションに分かれ、集中的に英語を学びました。

今年の合宿では、「自ら伝えたいことを論理的に伝えること」を主眼とし、去年までの英語ネイティブの講師による授業に加えて、英語によるプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションの場合は、伝えたい内容を自ら考えなければならないこと、また、それを分かりやすく伝えるためには、皆に理解してもらえるような表現を使いながら文章を



組み立てなければならないこと、そういった点が参加した学生たちには非常に難しいようでした。

合宿を通して、これまで話したことのない人たちとも交流を深めていきました。若者の間ではメールや携帯電話を通じての「会話」が日常的な昨今、人を目の前にして会話をすることの楽しさを実感できたことは、言葉道具として使っていく外国語学部の学生にとって大変有意義だったようです。

(英語学科准教授 岩本和良)

中国語運用能力の向上を重点に学内研修



夏季恒例の中国語学内研修が、8月3日から3日間にわたって八王子キャンパスで開催されました。研修には昨年は30名余上回る97名が参加し、1年生40名、2年生57名がそれぞれ2クラスに分かれ、中国語ネイティブの先生4名による1日5コマの指導を受けました。

今回の研修では、中国語運用能力の向上に重点を置き、授業は、「聞く」ことから始まって、「読む」、そして「会話する」と段階を踏みながら、ほとんど中国語で行われました。

研修の締めくくりとして、台湾の大仁科技大学からの留学生17名との交流も行われ、自分達の話す中国語が留学生に通じたこと

で、外国人とコミュニケーションをはかる喜びを感じたようでした。

また、交流の一環として、中村信幸教授による太極拳体験講座が松田記念館で開催されました。参加学生は、親しくなった台湾人留学生と一緒に「暑い、暑い」と言いながら楽しんで太極拳を体験していました。

3日間の集中講義を通して、中国語を学び、楽しみ、会話する喜びを実感してもらえたと思います。また、中国語漬けの日々を過ごした事で、物事を最後までやり遂げる大切さを学んでもらえたと思っています。

(中国語・日本語学科講師 張 弘(宮首弘子))

キャンパス情報② 三鷹キャンパス

美容室・理容室 カットサロンアンズ



理容室(写真上)と美容室(右)。店内は明るく、リラクゼーションできる空間。カーテンで切り、鏡を覗きながらカットやマッサージなどを受けられます。

理容室 menu (一部)	¥1500
・カット+シャンプー	
美容室 menu (一部)	
・カット(フロア・シャンプー)	¥2100 (+)
・ヘアカラー	¥4900
・前髪カット	¥500
・眉毛カット	¥600
・フェイシャルマッサージ&パック	¥1400
※上記は学生・職員料金。 (+) 職員は ¥2300	

営業時間と定休日

美容室	9:00 ~ 17:00	(定休日: 日曜・祝日)
理容室	9:00 ~ 18:00	※土曜は17:00まで (定休日: 日曜・祝日)

電話予約をおすすめします 0422 - 41 - 0063

大学院

●医学研究科 大学院生からのメッセージ

研究者として、人間として成長できる環境



研究指導教員の櫻井裕之教授から実験のアドバイスを受ける。6人目の学生は、研究している薬理学研究室では日常的に英語が飛び交う。



生理系専攻 博士課程3年
(分子細胞薬理学専攻) スネナ・スリバスタバ

私はかねてから、海外の大学で博士課程の勉強をしたいと考えておりました。社会のグローバル化が進み、特に研究者を目指す者にとって、研究能力が高まるだけでなく、様々な背景をもった人々とのコミュニケーション

●保健学研究科 【研究が面白い】大学院生からのメッセージ

終わりのない研究、常にチャレンジする気持ちで

保健学部1年次から現在所属している分子生物学研究室で、実験補助としても研究室に入っています。同じ環境で実験をしても違う結果が出る時がある。それはなぜか? そんな疑問を解決したいという探究心から研究に興味を持ち始めました。

4年次の卒業研究はよく知られていないミミズの体質や構造について、遺伝子レベルで研究をした結果を『シマミズ Metallothionein 遺伝子を含むゲノムクロームの単離』という論文にまとめました。しかし満足な結果が得られなかった敗北感と、より問題解決能力を養いたいと考えて、大学院に進学しました。学部時に比べて講義数は減り、研究や実験が中心になっています。テーチャングアシントとして学部生が実習で使う試薬を作ったり、細胞を育てたり、実験・実習中

保健学専攻 博士前期課程2年
(分子生物学研究室所属) 相見 祐輝



には器具の使い方を説明したり、学生の質問に対応するなど指導補助にあたっています。研究成果を学会などで発表したときには初めて発表ポスターの作成も行いました。引きつづき取り組んでいるシマミズの遺伝子研究では、遺伝子解析を重ね、遺伝子周辺の塩基配列を5,000塩基から10万塩基まで決定することができました。

ある研究を達成しても、さらに新たなことが出てきて、研究は終わることはありません。これからも常にチャレンジ精神を持って研究に取り組んでいきます。

くいただき、研究についてのより広い展望を与えられ、また、自分の位置を知ることができました。競争心がかき立てられ、また科学的好奇心がより一層刺激される経験でした。

日本での学生生活は大変興味深いものであり、また、国際人としての大きな経験でもありました。それぞれの文化には学ぶべきことが多くあり、また、様々な問題に出会うたびに、人間としての成長があったように思います。日本での素晴らしい思い出を抱いていずれインドに帰国することになります。が、いつの日か、再び日本に戻って来れることを心より願っております。

指導教員からひと言

スネナさんは、インドの大学で生化学の修士を取得した後、ご主人の仕事の関係で来日し、外国人留学生が多く、英語ができれば働けると評判だった私どもの薬理学教室を知ることとなりました。しばらく実験助手として働いた後、彼女に博士号取得の希望のあることを知った前任の金井好克教授の勧めで大学院に入学。学術振興会より奨学生として選ばれました。尿酸トランスポーターとそれに結合するタンパク質の仕事で学位論文のテーマとして選び、実験に励んでいます。

(薬理学教室教授 櫻井裕之)

●国際協力研究科

中国語スピーチコンテスト世界大会に参加して

国際文化交流専攻 博士前期課程2年 池田 尚広

漢語橋世界大学生中国語コンテストが7月7日から1ヶ月に渡って中国湖南省長沙で行われ、世界60の国や地域の予選を勝ち抜いた114人の学生が自分の夢や今の思いを中国語で語り、中国語の能力と表現力を競い合いました。

私は5月24日に国内予選・東日本の部で1位で通過し、この大会に臨みました。コンテストでは、将来、一流の通訳者となり、日中関係の未来に貢献したいことを現在の大学院生活を絡めてスピーチしました。コンテストでは上位入賞は逃しましたが、他の参加者の表現力と創造性の豊かさに感動を覚え、学ぶべき点が多いと感じました。

学生同士の交流も貴重な経験でした。経済学の修士課程を終えたばかりのインド代表の陳百霞さんからインドの経済や就職事情を聞いたり、シンガポール代表の華人、黄美亭さんとはホテルのロビーで夜中2時過ぎまでスピーチの練習をしたり、大学進路が難しいというシンガポールの教育制度について聞かせてもらったことなども印象に残りました。

多くの方の支えがあり参加できた今大会は、今後の学習の励みになると同時に各国の同年代の学生と交流できる貴重な機会でした。その感動を後輩達にも味わってもらいたいと思います。



衣装は押入れに30年以上も眠っていた父親のもの。

硬式野球部優勝、リーグ1部昇格を決める！

平成21年4月1日に開幕した東京新大学野球連盟春季リーグ戦2部リーグにおいて、杏林大学硬式野球部は9勝1敗の成績で3シーズン連続の優勝を飾りました。

とりわけ開幕8連勝で迎えた5月23日の淑徳大学戦は、史上初めて杏林大学八王子キャンパスで公式戦を行うことができ、吹奏楽部をはじめとした学生連、父母、教職員の多数の応援を得て6対4で勝利し、9連勝で、大応援団の目の前で優勝を決めることができました。

つづいて6月7日、8日に飯能市営球場で1部最下位校の共栄大学との間で入れ替え戦が行われました。昨年、春秋ともに2部リーグで優勝を決めながら、入れ替え戦で1部リーグ校の壁に跳ね返されただけに、期待以上に不安の方が大きいものでした。

しかし、初日の飯能市営球場でわれわれの不安を希望にかえてくれたのは、スタンド一杯に埋め尽くされた応援団、そしてその応援をリードするが吹奏楽部のブラスバンドでした。ベンチにいた選手達、スタンドから声を震らす控え選手達、そして父母やOBらの応援団、まさにベンチとスタンドが一体



6月8日、共栄大学との1部・2部リーグ入れ替え戦で勝利を収めた瞬間、選手たちはベンチから一斉にグラウンドに駆け寄り、我輩一監督を胴上げした。

となった戦いは、7対0、7回ゴールドゲームの勝利をもたらしました。完全に勢いに乗った杏林大学野球部は、翌日の第2戦も序盤の劣勢を跳ね返し、4対3で逆転勝利し、見事、4シーズンぶりの1部昇格を決めました。選手達が普段以上の力を発揮

できたのは声援のおかげであり、心から感謝致します。いつの日か1部リーグを制し、大学選手権の舞台で神宮の森で優勝を戴けるよう、今後とも精進する所存であります。(総合政策学部教授 硬式野球部顧問 内藤高雄)

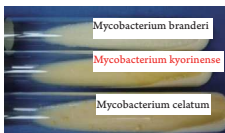
新しい病原性の細菌を発見！！

杏林にちなんで Mycobacterium kyorinense と命名

医学部付属病院臨床検査部の渡邊卓部長らのグループが、ヒトの感染症の原因となる新しい抗菌菌 Mycobacterium kyorinense を発見し、その詳細が専門誌に掲載されました。

抗菌菌とは、ヒトを含む動物の感染症の原因となる細菌の種類で、結核菌もこの仲間に含まれます。今回発見した新しい抗菌菌は、当院呼吸器内科で治療された感染症患者さんから分離されたもので、臨床検査部の岡崎充宏博士（副技師長）らが呼吸器内科の協力を得て詳細な検討を行いました。

その後岐阜大学および大阪市立大学の協力により、他施設の二人の患者さんから分離された菌も同一の菌であることが判明し、合わせて International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology 誌に報告し、新菌種と認められたのです。同誌は、新菌種の発見において世界的権威を持つ雑誌で、新菌種と公式に認定されるためには同誌に掲載される



ことが絶対条件となっています。なお、新菌種の発見者には、菌の命名権が与えられることになっています。本菌は杏林大学医学部付属病院で分離された菌から初めて同定されたことから、「杏林」の名をラテン語の形容詞に変えた kyorinense という単語を用いて Mycobacterium kyorinense の名称を提案し、これが承認されました。遺伝子技術の発達により、最近では新菌種の発見数は増加していますが、ヒトでの感染症の原因となる新たな菌の発見は近年でもまれです。今回発見した菌は、新たな病原菌の発見という生物学的な重要性ばかりではなく、感染症の診断治療という観点からの臨床的意義もきわめて高いものです。

本菌に関する論文は、International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology 2009年6月号第59巻(1336-1341ページ)に掲載されました。

成績優秀学生表彰

杏林大学は毎年、4学部あわせて12学科の各学年において優秀な成績を修めた学生を表彰し、杏林大学奨励金を授与しています。

奨励金は各学部の今年入学した1年生に対しては入学時奨励金として20万円を、2年生以上の学生に対しては在学生奨励金として10万円をそれぞれ授与します。

奨励金授与式は5月19日と27日にそれぞれ三鷹キャンパスと八王子キャンパスで行われました。式では、長澤俊彦学長が成績優秀学生一人一人に奨励金受給者決定通知を授与した後、「各学部の学科生の中から選ばれたことを誇りとして、他の学生の手本となるよう自覚をもって学業に励んでください。」とメッセージをおくりました。

入学時奨励金支給者 (三鷹キャンパス)			在学生奨励金支給者 (八王子キャンパス)		
学部	学科	氏名	学部	学科	氏名
医学部	医学学科	栗田 隆之	保健学部	臨床検査技術学科	内藤 良太
保健学部	看護学科	荒井 龍乃		健康福祉学科	荒井 龍乃
在学生奨励金支給者 (三鷹キャンパス)			在学生奨励金支給者 (八王子キャンパス)		
学部	学科	氏名	学部	学科	氏名
医学部	医学学科	藤村 智夏	保健学部	健康福祉学科	小川 穂子
		宇野 帆		臨床工学学科	亀山 美穂
		鍋田 陽明		健康福祉学科	長谷 純美
		永井 健太郎		臨床工学学科	明田 知子
		中澤 まゆい		救急救命学科	佐藤 忠介
保健学部	看護学科	池田 穂子		救急救命学科	高崎 千明
		宮本 真		救急救命学科	久米 穂子
		中田 希希		総合政策学部	長谷 純美
入学時奨励金支給者 (八王子キャンパス)			在学生奨励金支給者 (八王子キャンパス)		
学部	学科	氏名	学部	学科	氏名
保健学部	臨床検査技術学科	佐々木 麻衣	保健学部	臨床工学学科	西村 史
	健康福祉学科	小田 美穂		健康福祉学科	平田 祐子
	臨床工学学科	高野 弘光		健康福祉学科	宋 美鈴
	救急救命学科	高崎 弘光		健康福祉学科	大瀬 重
	理学療法学科	岡崎 至人		健康福祉学科	今川 綾乃
総合政策学部	総合政策学科	岡崎 正樹	東アジア言語学部	言語学	菅 亜樹
	企業経営学科	竹下 達也		中国語・日本語学部	宇原 夏海
外国語学部	英語学科	中川 雄介		国際コミュニケーション学部	山内 麻里子
	中国語・日本語学部	森戸 由佳里		国際コミュニケーション学部	山内 麻里子
	国際コミュニケーション学部	宮林 唯希		国際コミュニケーション学部	小川 千賀

本1の(表9)に「わ」 総合政策学部1名(小田 美穂)

本人の希望により、総合政策学部1名の氏名は非掲載

数字で見る杏林大学②

2443対2228

この2つの数字は何の比率だと思いますか？ 実は、杏林大学に在籍する学生の男女の数の割合です（平成21年5月1日現在）。杏林大学には大学院生や留学生も含めて4671名の学生が学んでいます。

一般的に理工系大学は男性が、文系系は女性の割合が非常に多いという印象を受けるでしょう。

杏林大学では、タイトルの数字のように、男女比がほぼ1対1でバランスが取れているといえます。学部別に男女比を見てみると、外国語学部が448:703と女性が多く、総合政策学部が1030:315と男性優位です。保健学部はどうでしょうか？ 462:926です。医学部は431:149と女性も健闘しています。内数では留学生は81:105です。大学院は72:135で、学問の道を目指すことには女性のほうが熱心なんでしょうか。このように学部や大学院によっては男女の比率はまちまちながら、杏林大学全体では男女ほぼ同数となっています。これは理系学部が医学部、保健学部の2学部、また文系学部が外国語学部と総合政策学部の2学部という構成の総合大学という姿から来ている結果といえるかもしれません。

金田一教授の研究室から②

っていうかあ

「っていうかあ」というのを聞くようになったのは、ここ10年ぐらいだろうか。相手が何かを言ったときに、その合の手として使われる。もっと短くなって、「ってか」というものもある。

意味は、「と言うか」である。であるから、相手の言っていることの否定である。あなたがそのように言うのは、間違っている、あまり正確ではない、ということであろう。

では実例を見てみよう。
「これマジおもしろくない？」
「っていうかあ、やばいよね。」
「ってか、まじハマリそう。」
「そ、ってか、やばいよねえ。」

これは、新発売された或るお菓子について論じ合う杏林の学生二人の会話である。

初めて食べた一方は、これを大変美味であるが、それを美味であると言う。さらに一方は美味であると言い、相手は大変美味であると言う。すなわち、この両者の間には、意見の相違がまったくない。新発売のお菓子についての評価は、完全に一致している。

こういう場合、「と言うか」という、相手の意見への不賛成、非同意を表明する語句の使用は不可能であるように思えるのだが、連発される。どうしたことであろうか。「と

言うか」は、むしろ相手の賛成の表明であるかのように考えられる。

これと同じような語句として、最近耳にするのは「あとオ」というのがある。

「あとオ」の「オ」は、「ト」の音を、半分ぐらい母音の部分を伸ばしたような発音のされ方をする。意味は「後」からきており、更に付け加えるならば、ということであろう。

某アイドルについて、学生二人が論じる。
「もう、マジ信じらんないよねえ」
「あとオ、うそって思った」
「あとオ、なんでーって」
「あとオ、ありえないか？」

要するに、この二人は某アイドルの所業について、驚いているということしかし、表明していない。驚いたということが、議論の出発点であり、驚いたということが結論である。その間、新たな論点や視点が付け加わったというように見えない。

「っていうかあ」「あとオ」、相手の言うことを聞いた、ということしか表さない。あまり意味がない。相手の言うことをちょっと聞いていないのかもしれない。

っていうかあ、どうでもいいんじゃないかなあ。あとオ、なんだか無駄っぽい。



健康ひとくちメモ② したたかな細菌、ピロリ菌

ピロリ菌、変な名前ですね。正式には「ヘリコバクター・ピロリ菌」といいます。胃の粘膜をおおう粘液の中に住んでいる変りものであり、ヘリコバクターのように身体を回転させながら動くためにヘリコ・バクター（バクテリア）と呼ばれました。従来、胃の中は酸度が強く細菌は住めないと考えられていましたが、その常識をくつ返したのがオーストラリアの研究者、病理医のウォーレン先生と消化器内科医のマーシャル先生です。2人は世界で初めて胃の粘膜からラセン状の細菌（後のピロリ菌）を発見し、胃炎や胃潰瘍、十二指腸潰瘍の原因菌であることを明らかにし、その功績により2005年、ノーベル賞を授与されたのは記憶に新しいところです。

ピロリ菌は子供の時に口から感染しますが、上・下水道の完備した現在では子供の

の感染が大変少なくなり、今後胃の病気も少なくなることが期待されています。

ピロリ菌に感染しているかどうかは内視鏡検査で胃の粘膜を採取して調べたり、血液、尿、糞便そして呼吸などからも判ります。ただし保険がきくのは胃潰瘍・十二指腸潰瘍だけであり、胃の病気が多い日本人にとっては困ったことです。

ピロリ菌は3種類のくすり（胃酸分泌抑制薬・抗生物質2種類）を1週間内服する方法で除菌します。これにより胃炎がおさまる、いろいろな病気（胃潰瘍や胃がんなど）の予防につながります。最近では抗生物質が効かない薬剤耐性菌が増え、除菌できない方も増えています。

当院の消化器内科は日本を代表するピロリ菌研究のメッカです。2次除菌、3次除菌にも積極的に取り組んでいます。ご心配の方はぜひご相談下さい。ピロリ菌を除菌し、きれいな胃をとり戻しましょう。

(高橋一彦：杏林大学医学部教授 消化器内科)

学長と学生の懇談会

長澤俊彦学長が学生から授業や学生生活などについて要望を聞く懇談会が、三鷹キャンパスで6月16日、八王子キャンパスで7月1日それぞれ開かれました。

各懇談会には学長のほか、それぞれのキャンパスの学生代表や教員・事務職員の代表が参加し意見を交換しました。学生側からは講堂や自習室、カリキュラムや時間割などについて様々な意見や要望が出されたほか、学生・教職員全体でマナー向上へ取り組もうといった提案が出され、大学側からは要望や意見を真摯に受け止め可能なものから改善に取り組みしていく考えが示されました。

こうした懇談会は毎年行われており、これまで学生から出された意見・要望から、食堂などのアメニティの改善、図書館の開館時間の延長、通学バスの時間短縮などが実現しています。

杏林大学シンボルマーク

建学の精神「真・善・美の探究」の三つの要素が相互に関連していることを三角形で表しています。双方から同じ力に支えられ、安定した不変の角が「真」を表し、豊かな曲線に包まれた角は「善」、美しい曲線を描いて天空に伸びる角は「美」を、そして、「杏林」が意味している「社会への貢献」を進めていく新しい風を表しています。 学園広報誌あんず224号(1992年10月)より

このシンボルマークは、平成4年に学生や教職員に本学のシンボルとなるスクールイメージやデザインを募集し、それらのアイデアをもとにグラフィックデザイナーの桑原達美氏に制作を委託しました。同年9月の運営審議会と理事会で正式に決定され、その後ロゴタイプとともに商標登録されました。現在のマークは大学案内・封筒のほか各種パンフレットや広告・ホームページなどに広く使用されています。

2009年度 学園祭のお知らせ

八王子キャンパス
杏園祭 10月31日(土)・11月1日(日)

三鷹キャンパス
杏祭 10月31日(土)

編集を終えて

- ようやく安定した夏空が続くようになったお昼休みの真只中の第2号編集作業。木下修総合政策学部客員教授の厳しく妥協のない指導をいただき、前日の紙面は跡形もなくなる毎日でした。そして吹野新室長の登壇は第2号にフレッシュな風を。杏林大学のいまを読者の皆さまに鮮やかに感じてもらいたいと願っています。(有)
- 大学新聞第2号は当初、創刊号の半分の4ページのつもりでした。ところが、半年間だけでも学園内ではさまざまな動きがあり、創刊号と同じ8ページでも収まりきらないほどでした。本学園が日々動いていることを改めて感じました。(ふ)
- 明るさ、大きさ、アングル、掲載位置など写真の取扱には苦労しましたが、いろいろな方のご協力で何とか出来上がりました。普段から写真の収集を心がけていたと思います。(お)
- 新聞が完成するまでにはたくさんの方の協力があり、多くの方々に協力いただきました。2号にご貢献いただきましたすべての方々に感謝します。(酒)

杏林大学新聞編集委員会 編集長 黒田有子
事務局 広瀬・企画調査室
TEL 0422 (44) 0611 E-mail koho@ks.kyorin-u.ac.jp URL http://www.kyorin-u.ac.jp